

響きわたる太鼓の音色で 地域を盛り上げる

JAふらの 東山支所 女性部



▲樹海盆踊りにおいて新しい長胴（ながどう）太鼓で輝気太鼓を披露



地 域でさまざまな活動を展開しているJAふらの東山支所女性部（林真佐子部長）。その活動の中で、女性部員を中心に結成されたグループ9人が「輝気・KAGAYAKI太鼓」の演奏を通じて、地域を盛り上げています。夏に開催されている東山ふるさと祭りのステージイベントで、農作業着のファッションショーを披露していた女性部は、「長く続けら

れて、みんなが楽しむことができるものはないか」と新たな出し物を模索。そんな中で、年に1回だけ樹海小学校の子どもたちが「樹海太鼓」の演奏で使用していた宮太鼓と樽太鼓を活用しようと、和太鼓演奏の経験があるJAふらの東山支所職員の指導のもと、平成23年に「輝気太鼓」が誕生しました。当初は東山ふるさと祭りだけの活動でしたが、徐々にさまざまな人から声がかかり、今ではお揃いの赤いバンダナとポロシャツ姿をトレードマークに、地域イベントなどで演奏を披露しています。「樹海の里フットパスで大自然の中、いつも仕事で着ている農作業着で演奏し、参加者に喜ばれたことが、印象に残っています」と6



▲樹海の里フットパスの休憩場所で農作業着姿で参加者に演奏を披露



▲背中に「樹海人」とプリントされたポロシャツ

年間の活動を振り返る林部長。輝気太鼓は誰でも参加できるので、これから仲間をどんどん増やしていきたいそうです。また、8月13日に行われた第7回樹海盆踊りでは、東山地域連絡協議会がコミュニテイ助成事業で購入した新しい長胴太鼓が披露され、メンバーたちがその新しい太鼓を使い輝気太鼓を披露するとともに、盆踊りのお囃子に華を添えました。今年も長寿を祝う会にも招待されるなど、地域のイベントなどで活動していますが、「これからは施設の慰問など、地域以外のところでもみなさんに喜んでもらえるよう頑張りたい」と林部長は話します。今年度の文化祭では、新曲を披露できるよう、日々練習に励んでいる輝気太鼓のメンバー。「自分たちの活動が少しでも地域の活性化につながればうれしいです」と今後もさまざまな場面での活躍が期待されます。